

世の中の進化と新しいニーズに応える製品群

メイコーの電子回路基板は、豊かな社会、快適な暮らしの実現に貢献しています。

エニージェネレーション基板

超微細加工が可能なCO₂レーザーやフィルドめっきなど最先端の技術に応用した全層自由接続構造のビルドアップ基板で、主にスマートフォンに使用されています。



厚銅基板

太陽光発電やエコカーのハイパワーモーターなど、大電流を流す製品に使用される基板です。従来の基板と比べ回路用の銅パターンを大幅に厚くし、放熱性を改善しています。



ビルドアップ基板

絶縁層上に導体パターンを形成した後に、一層ずつ積み重ねていく多層基板で、各層の接続部分の上にも配線ができるため、高密度化、高集積化が可能です。携帯電話、デジタルカメラなど、限られたスペースに高密度の配線を必要とする機器に使用されています。



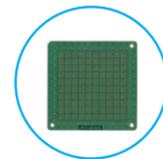
両面・多層スルーホール基板

2層から10層以上のもので、また高い耐熱特性や物理特性を持つ特殊なものから一般品まで、広範な用途に使用されています。



モジュール基板

ベアチップ実装や高密度実装に対応する超薄型構造のビルドアップ基板で、通信モジュール、カメラモジュールなど各種パッケージモジュールに使用されています。



メタルベース放熱基板

長寿命で環境にやさしい製品の代表であるLEDチップを搭載する基板です。家庭やオフィスにおける各種照明や液晶テレビのバックライト、自動車のヘッドライト等に使用されています。



部品内蔵基板

チップコンデンサやチップ抵抗などを基板内に埋め込んだ基板です。表面実装ICと内蔵受動部品を最短配線することにより、電気特性を向上させることが可能です。



MEIKO CSR REPORT 2018



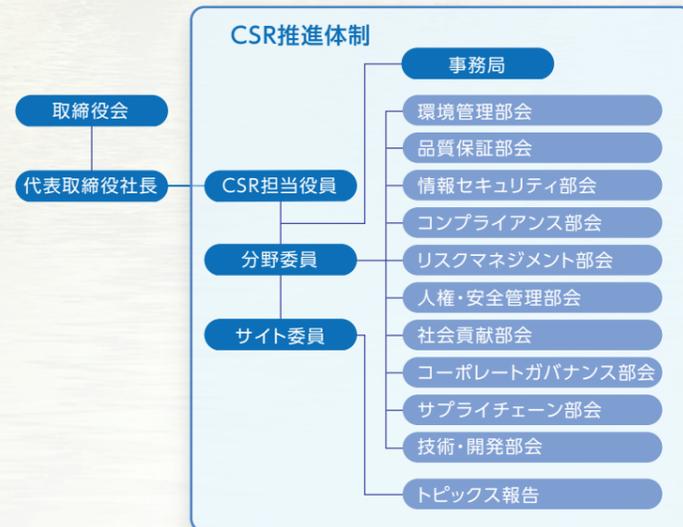
世界で最も信頼される 電子回路基板メーカーへ

メイコーのCSR宣言

メイコーは、経営理念に基づき、
良き企業市民として社会的責任を果たし、
事業活動を通じて
地球環境と社会の持続的発展に貢献します。

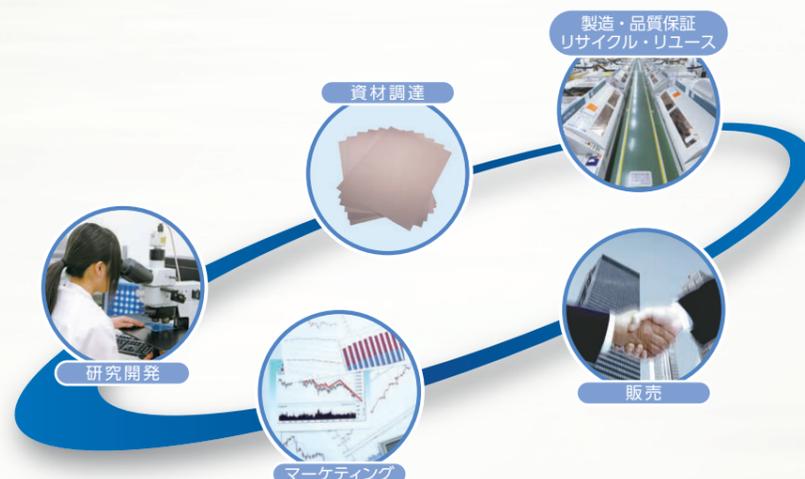
CSR推進体制

メイコーのCSR推進体制は、工場、営業所などの事業所を単位とする各サイト委員と、会社としての横串機能で分けられた各分野委員で構成されています。これによりグループの全領域をカバーしCSR宣言に基づく活動を展開するとともに、すべてのステークホルダーの皆様への誠実な対応を可能にしています。



バリューチェーンを通じた メイコーのCSR活動

資材調達、製造を経て製品をお客様にお届けし、研究開発によりさらなる改善を実施する一連の事業活動を通して社会的責任を果たしていくこと。メイコーは、バリューチェーンを通じた一貫性のあるCSR活動により、関係するすべてのステークホルダーから信頼される事業活動に取り組んでまいります。



編集方針

『CSRレポート2018』の発刊にあたって

当社にとって11回目の報告書となる『CSRレポート2018』を発刊いたします。本報告書は、「トップメッセージ」「社会性報告」「環境報告」「マネジメント報告」の構成で編集いたしました。ぜひ多くの方々に本報告書をご覧いただきたく、また良き企業市民として皆様の信頼を得られますよう社員一同責任ある行動を心がけておりますことを、報告書の一端からでもお汲み取りいただければ幸いです。

●対象読者

株式会社メイコーに関わるすべてのステークホルダー

●対象組織

株式会社メイコーおよび関連会社

●報告期間

原則として2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)のCSR活動について報告しています。活動事例の紹介については一部過去の情報も掲載しています。また、最新の情報をお伝えるために、2018年4月以降の情報も紹介しています。

●参考にしたガイドライン

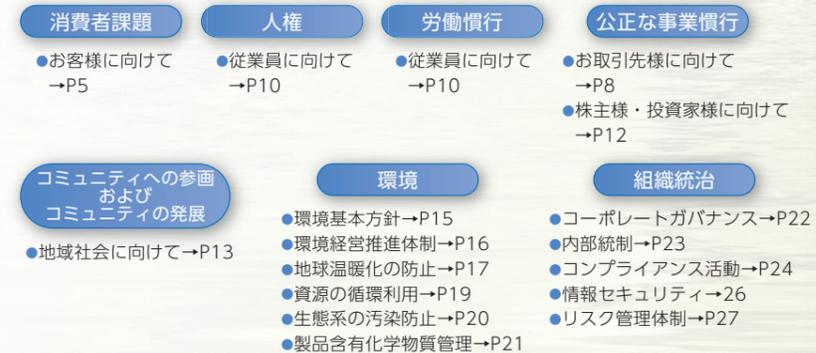
・「環境報告ガイドライン2012年版」(環境省)
・「サステナビリティ レポーティング ガイドライン第4版」

●発行時期

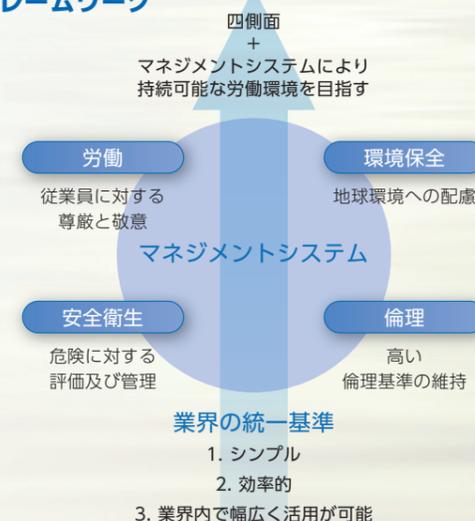
今回 2018年12月

※ 本文中で「メイコー」と表記しておりますが、株式会社メイコーおよび関連会社を含むメイコーグループ全体を表しています。

ISO26000対照表



EICCフレームワーク



INDEX

01 メイコーのCSR

03 トップメッセージ

05 社会性報告

お客様に向けて
お取引先様に向けて
従業員に向けて
株主様・投資家様に向けて
地域社会に向けて

15 環境報告

環境基本方針
環境経営推進体制
地球温暖化の防止
資源の循環利用
生態系の汚染防止
製品含有化学物質管理

22 マネジメント報告

コーポレートガバナンス
内部統制
コンプライアンス活動
情報セキュリティ
リスク管理体制

28 会社概要

地域・社会への貢献を通して、 信頼される企業を目指して まいります

企業は、地域や社会そして地球にも密接なつながりを持ち、その一員として存続しています。そして私たちメイコーは、これらに対して果たすべき役割は何かということに常に意識し、社会から受け入れられ信頼される企業になることを目指しています。また、その成果を積極的に開示し、ステークホルダーの方々とのコミュニケーションを通して、さらなる価値を創造していくことが重要な社会的責任であると考えています。たとえば、環境破壊や資源・エネルギー問題、人権問題、自然災害や食糧問題など、世界で様々な問題が起こっていますが、これらは人類共通のテーマとして国際機関、各国政府、企業、そしてすべての人々が連携して各々の役割を果たしていくことが求められます。メイコーも自らが果たすべき役割をしっかりと認識し、真摯に取り組んでいます。



代表取締役社長

名屋 佑一郎

事業活動において、メイコーは生産プロセスから発生する環境負荷を低減し、資源効率を高めて持続可能な社会の構築に貢献しています。また製品面では、環境社会の実現に貢献する太陽光発電、ハイブリッドカーや電気自動車等の重要な部品として、また自動車運転における安全や安心を実現する基板として大電流基板や高放熱基板、高周波基板などの製品化をおこなっています。さらにサプライチェーンについても、低コストだけでなく資源の枯渇

や生態系の劣化を考慮した調達活動をおこなっています。また内戦や民族対立が発生する地域の「紛争鉱物」や「児童労働」などについても、その地域や企業からの資材調達を排除するグループ方針を定めています。コンプライアンスについても、世界の多様な規範や倫理を尊重して、規程やマニュアルを整備し全従業員への周知徹底を図っています。メイコーの従業員一人ひとりが、世界基準のCSRを意識し取り組みを進めています。

メイコーグループ経営理念

「顧客に最高の価値とサービスを提供し社会に貢献する」
「最高への挑戦」
「企業の価値を高め社員と社会に幸福を」

企業行動憲章

メイコーグループは広く社会にとって有用な存在であることを目指します。
そのため、次の9原則に基づき、持続可能な社会の創造に貢献するグローバル企業として行動します。

- 1 社会的に有用で信頼性の高い製品・サービスを品質・安全性や顧客情報の保護に十分考慮して開発・提供し、お客様の満足と信頼を獲得いたします。
- 2 創造的な技術開発に挑戦し、新規事業の開拓を行い、豊かな未来に貢献します。
- 3 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行い、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 4 株主はもとより、お客様・投資家・お取引先・従業員など、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正・迅速に開示し、企業活動の透明性を高めます。
- 5 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で生き活きと働きやすい環境を実現します。
- 6 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、地球環境への負荷を軽減し、持続可能な社会づくりに貢献します。
- 7 良き企業市民として、積極的に研究、教育、環境保全、地域社会奉仕などによる社会貢献活動を行い、反社会的勢力および団体とは断固として対決いたします。
- 8 国際的な事業活動においては、グローバルルールやローカルの法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献いたします。
- 9 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。また、社内外の声を常時把握し、実効あるガバナンスの整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

■ ステークホルダー

企業は、関係するすべてのステークホルダーとのつながりの中で事業をおこなっています。メイコーでは世界中で働く社員一人ひとりが、CSRをすべての事業活動の中核をなすものと認識し、各々の地域で信頼を得られるよう、社会の一員としての責任を果たしてまいります。



社会性報告

SOCIAL REPORT

メイコーは様々な国・地域・社会で、様々な人々と関わりながら、産業発展に不可欠な電子回路基板を製造・販売しています。私たちは、そのような社会的な存在であることを自覚し、責任を果たしていくとともに、私たちを取り巻く多様なステークホルダーに配慮し、事業活動を展開しています。

お客様に向けて 品質保証への取り組み

2017年度の主な活動実績

- 市場不良「ゼロ」に向けて、顧客クレーム、工程内不良の情報を元に、設計面、管理面の観点から改善を図る
- 過去トラ横展開の継続による不良の未然防止
- 内部製造工程監査の継続とレベルアップ
- さらなる変化点管理の徹底
- 全社の異常処置管理の整備(仕組みの見直し)
- 標準化委員会の活性化によるMES標準整備の推進

※MES標準:MEIKO ENGINEERING STANDARD

今後の計画

- 市場不良「ゼロ」に向けて、重大不良の真因究明による対策および横展開、又再発・慢性不良の改善を図る
- 過去トラ横展開の継続による不良の未然防止
- 内部製造工程監査を継続し管理レベルを向上させる
- 品質マネジメントシステムの維持・改善
- 標準化委員会の活性化によるMES標準整備の推進

メイコーでは経営理念の1つである「顧客に最高の価値とサービスを提供し社会に貢献する」の実現に向けた「品質方針」を定め、信頼性を向上させることで、お客様の満足度を最高レベルにまで高め、社会に貢献することを目指しています。

品質保証に対する考え方と品質保証組織

近年、車載部品の不具合によるリコール問題等がニュースになり、企業経営が脅かされるリスクが高まっています。

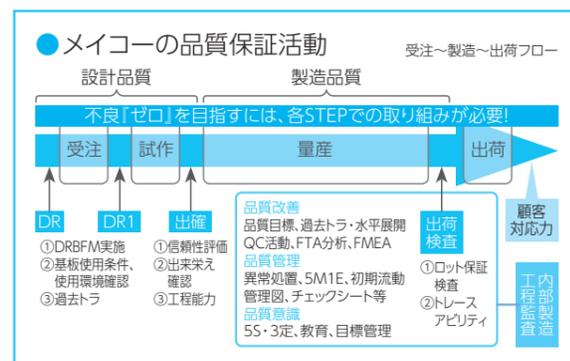
メイコーの製品も車載を中心に様々な製品に採用いただいております。品質の重要性は益々高まっています。

このリスクに対しては、これまでの発想を変え不良「ゼロ」を目指した活動を進めていかなければなりません。

設計品質、製造品質を高めるために、それぞれの段階での仕組みを機能させ、不良の発生を未然に防止する活動を進めています。

顧客ニーズへの品質保証 海外4工場の水平展開

2018年度のグループ経営方針に基づき海外工場および国内工場とともに、顧客ニーズに応えること



できる製品の品質保証体制を進めてまいります。グローバル工場を含めた品質保証と管理の強化を目指し顧客の要求に合致したものづくりを実践していきます。

お客様より表彰いただきました

●日立オートモティブシステムズ株式会社様よりリジッドフレックス基板共同開発による製品競争力強化への貢献が評価され、2018年4月13日に「Best Partner 特別賞」を受賞しました。



●富士ゼロックス株式会社様よりサプライヤーとしての功績が認められ2018年4月20日に「Premiere Partner 2018」を受賞しました。当社の受賞は8年連続の受賞となります。



顧客満足度調査

メイコーでは製品、サービスの品質の向上を目的として、お客様の製品、サービスに対する満足度の調査を毎年実施しています。

2017年度は79社様からご回答をいただきました。調査は①製品の品質、②製品の価格、③製品の納期、④サービス、⑤技術対応の5項目についてご回答いただきました。

お客様の声として、多くのお客様に満足をしていただいておりますが、一部のお客様からは厳しいご指摘もいただいております。製品、サービス向上のための指針とし、今後より一層お客様に満足していただけるよう努力してまいります。

ISO9001、IATF16949の認証取得

メイコーでは、グローバルスタンダードであるISO9001およびIATF16949を取得し、継続的改善に取り組んでいます。

ISO9001、IATF16949の認証取得状況

- ISO9001**
- 1997.05.13 (株)メイコー 電子回路基板で認証
 - 2002.05.01 中国広州工場認証
 - 2003.01.27 ISO9001:2000による日本国内統合
 - 01.27 (株)MDS拡大認証(基板設計)
 - 2006.11.29 中国武漢工場認証
 - 2008.02.20 メタルマスク部拡大認証
 - 2010.06.18 ベトナム工場認証
 - 2014.01.15 石巻工場再取得
 - 2015.04.24 タンロン工場認証
- IATF16949**
- 2017.08.09 中国広州工場認証
 - 2018.02.14 中国武漢工場認証
 - ISO/TS16949(IATF16949認証審査中)
 - 2013.01.09 ベトナム工場認証



ISO9001 (日本国内)



IATF16949 (広州工場)

※国内工場は JET (電気安全環境研究所)、中国工場は TUV (テュフラインランド)、ベトナム工場は BVC (ビューローベリタス) より認証取得しています。

現場の声



品質保証部 課長
品質保証担当
古矢 肇

品質保証部の品質保証担当の古矢でございます。品質問題が発生した時の窓口を担当する中で、昨今の当社プリント配線板の品質に対するご要求の急激な高まりを感じております。特に自動車に用いられる部品では、エンジン、インバータ、カーナビ、どの部品であってもプリント配線板への高度な技術要求はもちろんのこと、キズや異物による一件の不具合に対しても発生が許されなくなって来ております。

日本でも自動運転タクシーの商用化の記事を見ましたが、我々がユーザーだった時、走行中たった一回の交通事故も起きて欲しくはなく、品質要求の高まりの理由が理解でき、日々対応しているところです。

そういった中、メイコーは国内主要車載メーカー様を中心に製品納入をしておりますが、さらに多くの引き合いを頂くようになり、海外の新工場での認定活動が加速しております。

過去の改善事例をマザー工場から新規工場へ展開し、一件の不具合も発生させないよう新規立ち上げ時からの変化点、変更点に対するリスク抽出、潰し込みが大変重要であると考えております。

このようなアプローチのしかたは、お客様毎に異なっており、さまざまなハードルが存在しますが、関連部門一丸となり、困難を乗り越え貴重な経験とノウハウを蓄積しております。

厳しい品質へのご要求に対して、今後もお客様のご要求に添えていけるよう、これら蓄積された経験とノウハウを生かしていきたいと考えております。

お客様に向けて 基板開発

2017年の主な活動実績

- 高速・高周波基板の要素開発
- 銅インレイ基板の要素開発
- メタルベース高放熱基板の開発
- 部品内蔵基板(パワーIC内蔵)の開発

今後の計画

- 高速・高周波基板の試作開発
- 高密度配線多段ビルドアップ基板の試作開発
- 放熱基板新規構造、放熱材料および新規工法の開発

メイコーでは、自動車向けをはじめとするプリント配線板技術により、お客様のご要求に最適なプリント配線板をご提案できるよう商品開発を推進しております。そして、材料・構造・工法にわたって最適化を図ることにより、小型高密度化や高周波、高速動作対応や大電流、高放熱対応を進めるとともに、より信頼性の高いプリント配線板をご提供します。

車載向けとして高い信頼性が要求されるプリント配線板は、走行安全系をはじめとして多くのユニットに搭載され、重要な役割を担っています。その車載ユニットを4つのカテゴリーに分け、以下にご紹介します。

走行安全系

ADAS(先進運転支援システム)センサの高精度化に向けて、高周波材料を使ったハイブリッド構造基板の要素開発を進めています。また、システム統合に向けて高速伝送用途でインピーダンス制御基板の要素開発も進めています。

情報・通信系

ナビゲーションや通信モジュールは、多段ビルドアップ構造で高密度配線のマザーボードが使われます。スマートフォンで培った高密度化技術に加え、車載基準の信頼性アップを進めています。

ボディ系

LEDヘッドランプは、メタルベース放熱基板が使われます。低弾性の放熱絶縁樹脂の開発によって、高信頼性を実現しました。また、キャビティ構造の基

板開発によって、アダプティブヘッドランプに対応しました。

パワートレイン系

インバータ、コンバータ、ジャンクションボックスは、部品内蔵基板にパワーICの内蔵を行うことにより放熱性の向上が確認されました。その他に厚銅基板で、工法開発を進めています。

自動車の進化を支える高品質なプリント配線板は、その形を変えて様々な用途に使用されています。今後はこれらプリント配線板開発を鋭意進めていくとともに、異種用途である環境発電用基板やフレキシブル温度センサ基板の産学連携研究を通じ、プリント配線板の適用範囲拡大に努めていく所存です。

自動車技術	基板技術	状況	
走行安全系	高周波対応	高周波材料基板	試作
	高速伝送	インピーダンス制御基板	試作
情報・通信系	0.4/0.5ピッチCSP	多段ビルドアップ基板	評価
	通信モジュール	高密度モジュール基板	評価
ボディ系	高放熱対応	メタルベース高放熱基板	評価
	局所放熱対応	銅インレイ放熱基板	開発
パワートレイン系	パワーIC放熱	部品内蔵基板	開発

お取引先様に向けて サプライチェーン

2017年の主な活動実績

- 購買危機管理基準を制定し、調達リスク最小化への取り組みに向けた購買監査を実施
- 2012年10月より紛争鉱物調査をEICC標準フォーマットにて実施
- REACH規則等最新版に対応しての環境対応調査実施<SVHC169物質>

今後の計画

- 危機管理基準をもとにした購買監査の継続的な実施
- 産地不明メーカーについての継続調査の実施
- 最新版管理の実施と不使用保証の明確化

メイコーでは、お取引先各社様にメイコーのCSR方針、環境方針などをご理解いただくための指針として「調達基本方針」を制定し、環境保護・対応に関する取り組みを強化するなど企業間の協力体制のもとCSRの推進に取り組んでいます。

調達基本方針について

メイコーでは、下記「調達基本方針」「購買取引行動指針」に基づく調達活動の継続を推進しています。

基本的概念として、お取引先様から部材調達に始まり生産活動・物流・販売に至るまでの一貫したサプライチェーンが求められている中、メイコーではお取引先様との相互信頼関係を築き、ともに繁栄できる関係(WIN-WIN)の確立が調達活動での最重要ポイントと考えています。国内の生産・販売拠点はもちろんのこと、海外拠点とのリレーションを含め、①調達基本方針のご理解 ②法令・社会規範の遵守 ③環境保護 ④反社会的勢力の排除 ⑤EICC行動規範をもとにした、品質、納期、価格、経営のほか事故、災害時の事業継続性など総合的に判断し購入先の選定をおこない、サプライチェーンによるCSRの実践を強く推進します。

● 調達基本方針

1. 購買取引行動指針に基づいたグローバル生産体制に対応した最適な調達活動
2. お取引先様とのコミュニケーション・連携を強化した円滑・公正・適正な調達活動
3. 環境対応(化学物質に対する対応/グリーン調達)の強化
4. サプライチェーンによる紛争鉱物の排除、若年労働者雇用の調査を推進

お取引様・協力会社様へのお願い

メイコーでは、調達基本方針である「環境対応」の側面より300社以上のお取引先様・協力会社様と地球環境に配慮した下記取り組み事項に関してのご理解・ご協力をお願いとお約束を推進しています。社内生産活動における「温室効果ガス排出抑制」、「廃棄物削減」および、「特定化学物質の管理」はもちろんです。環境に配慮した調達活動実現のため、お取引先様・協力会社様へもグリーン調達の推進や提案をいただくとともに、物流や営業活動に関しても地球環境に配慮した活動をお願いしています。2017年の具体的な活動実績としては、購買危機管理基準を制定し調達リスクを最小化する取り組みに向けた購買監査や、EICC標準フォーマットによる紛争鉱物調査、若年労働者雇用の調査REACH規則等最新版に対応した環境対応調査などを実施しています。

1. グリーン調達の推進・グリーン調達基準の遵守・「エコ商品」の情報提供
2. アイドリングストップの協力
3. 廃棄物の減量
4. 緊急事態の連絡に関する協力

お取引様の声

株式会社JCU
代表取締役社長 兼COO
木村昌志



株式会社メイコー様とは、1983年から35年という長い間、取引をさせていただいており、大変感謝しております。

この35年の間に地球環境も大きく変わってきており、地球環境を保全し持続可能な社会づくりに貢献することは、企業の社会的責任(CSR)として重要となっております。メイコー様は、再生可能エネルギーの普及活動など地球環境への貢献もされていますが、弊社も総合研究所および製造拠点である生産本部に太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーを利用して地球温暖化対策を行うなど、CSR活動を進めております。

メイコー様のように、CSR意識の高いステークホルダーの皆様と同じく、弊社もCSRに取り組み、これからも長年培った知見と研究・開発力で、新たな表面処理技術を追究し、ものづくりを支え、世界中の人々の豊かな生活に貢献していきたいと考えております。

今後とも末永くお付き合いいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

購買・調達活動への取り組み

内部統制とコンプライアンス

メイコーでは、購買・調達活動に対し以下の項目を遵守し、お取引先様との円滑な業務を継続しています。日本における「下請代金支払遅延等防止法」、グローバル調達においては、関税法、各国・地域における法令、社会規範の遵守、社内教育やコンプライアンスの確認を実施し、お取引先様との適正かつ持続的な取引を強化し推進しています。

1. 購買・調達活動に関わる法令を遵守し、お取引先様との公正かつ公平な業務を遂行する。
2. 購買・調達活動を通じて知り得たお取引先様の情報を守秘し、機密情報・個人情報などの流出を防止する情報セキュリティ体制を強化する。
3. お取引先様からの「接待・贈答」は社会通念の範囲内とし、個人的利益にあたる授受を禁止する。
4. 反社会的勢力・紛争鉱物調達・若年者労働の排除を遂行する。

環境対応(グリーン調達)

メイコーでは「環境に対する基準」に基づき、お取引先様との環境対応に配慮した購買・調達活動を推進しています。

1. 法規制(RoHS指令・ELV指令・REACH規則)や環境負荷物質の含有を確認し、適合品の調達を推進することで製品環境品質の維持・向上に努めています。
 - ① RoHS指令 : EUによる電子・電気機器における特定有害物質の使用制限
 - ② ELV指令 : EUで施行された、廃棄自動車の環境に与える負荷を低減するための指令
 - ③ REACH規則 : EUにおける人の健康や環境の保護のための法律
 - ④ JIG(1-R) : 電気電子機器製品に関する含有化学物質情報の開示に関するガイドラインの法規制物質
- ⑤顧客基準
2. 「環境保護に関する覚書」「環境負荷化学物質に関する不使用保証書」の締結を推進し、お取引先様との環境保護対応を推進しています。締結に関しては、外注加工メーカー様を含め主要お取引先様と進めています。
3. 産業廃棄物の排出削減に努め、資源の再利用など有価物としての取り組み対応をお取引先様と推進しています。

コンフリクトフリー調達方針

2012年8月、米国証券取引委員会(SEC)では金融規制改革法にある紛争鉱物条項への実施規則を採択しました。メイコーではサプライチェーンにおける紛争鉱物の排除を推進します。EICC/GeSI調査票に基づく調査、回答の開示とそのフォローにより、紛争鉱物を含んだ資材の調達を排除していくことを「コンフリクトフリー調達方針」に定めています。

従業員に向けて 働きやすい職場づくり

2017年の主な活動実績

- 女性が働きやすい体制の推進
- あるべき姿の次世代リーダーの育成
- 海外駐在員マネジメント研修、海外派遣の開始

今後の計画

- 継続推進
- 次世代マネジメント層の育成
- 製造技術の集中的教育、自己啓発制度強化

メイコーでは「企業の最大の財産は人」との考え方のもと、すべての社員にとって安全・安心・清潔で、多様性を尊重する、そして社員が成長できる「働きがいのある職場づくり」を推進します。

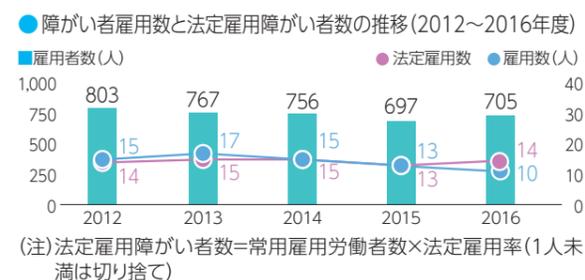
多様性の尊重

メイコーでは、人権を尊重し、人種・信条・宗教・国籍・年齢・性別・障がいなどで差別することなく、多様な人材が能力を発揮できるよう、公正な採用と評価ならびに処遇することに努めています。女性従業員に対しては産休・育休からの復帰にあわせた短時間勤務制度の推進なども積極的におこなっており、2017年度中の育児休業取得者は3名、職場復帰者は2名、短時間勤務制度利用者は22名となりました(グループ会社を除く)。

また、海外拠点では多くの現地従業員に加え日本人従業員が多数勤務しており、国内拠点においても数十名の海外出身者が勤務しています。国内外に関わらず人事異動・人材交流により、グローバル人材の育成、さらなる人材活性化を推進しています。

障がい者雇用

メイコー(グループ会社を除く)では障がい者雇用促進法に基づく法定雇用障がい者数を1991年度に満たして以来、2010年、2011年を除き継続的に達成してきましたが、2017年度は雇用者数の増加および障がい者の退職が重なり未達となりました。2018年度には法定雇用障がい者数を満たせるよう努めてまいります。



グローバル人材の採用と人材交流

メイコーの国内事業所では中国とベトナムを中心とする海外出身者が41名勤務しており、海外で活躍する日本人スタッフは84名おります。また、2003年度より実施している海外現地法人幹部候補生の日本での語学・技能研修も2017年度までに227名が修了しています。 ※2018.7.26現在

育休・時短制度利用者の声

神奈川工場
生産管理課 工程管理係

古川陽子



2008年に長女を出産、2012年に長男を出産しました。育児休暇を取得して復帰後、短時間勤務制度を利用し9時から16時までの勤務をしています。保育園に通っている時は、家から遠い保育園でしたので朝遅い出勤時間は助かりました。

退社後も早い時間に保育園に迎えに行くことが出来たので、少しの時間ですが公園で遊んでから家に帰ったりしていました。今は二人とも小学校に通っており、手が掛からなくなってきたので短時間制度を見直そうかと思いましたが、通常の勤務時間だと子供達より自分が早く家を出る事になってしまうので、使えるギリギリまで活用したいと思っています。

短時間勤務制度は、職場の方々にも理解して頂いていますので、勤務時間を超えない様に仕事の量も調整をして頂き、仕事と育児を両立する事が出来ています。子供達は働いているお母さんが好きと言ってくれています。その言葉を活力にして、今後も頑張りたいと思います。

グローバル社員の声

財務部 課長
盛松志



私は、2004年中途採用で入社いたしました。

入社後、経理部、財務部、経営管理、総務人事部等管理部門の業務に携わってきました。

武漢工場の立上げプロジェクトにおいては、総務人事部及び経理部門の業務を担当することになり、複雑な仕事環境、逆境状況の中でも、強い信念を持って、乗り越えていくこと等貴重な経験ができました。本社帰任後も、経営管理、経理・財務等の業務経験ができ、自分のフィールドをさらに広げることが出来ました。

メイコーに入社した頃と比較すると、企業規模が2、3倍になり、ついに売上高1千億円クラス大企業の仲間に入ることができました。そして、今まで、さまざまな外国社員を採用しており、やる気があれば、国籍や年齢を問わずに、重要な仕事を任せられ、会社と共に、成長できるような誇りがある会社だと実感しております。

これから、売上高2千億円、新規事業開拓という会社の成長目標に向けて、会社と共に、従業員の一人一人は、他社では、経験ができないような、スケールが大きな成長経験ができるのではないかと思います。

各種教育制度の導入

メイコーでは、社員一人ひとりの持つ潜在能力を引き出すとともに、経営理念の実現を担う人材を中長期的に確保するために、新入社員から中堅社員、幹部社員に至るまでの階層別研修や、職能や職種に応じた分野別研修をおこなっています。特に次世代のリーダー教育は最重要課題と位置づけ、現在のリーダーから次世代へ伝承すべき共通の独自価値を抽出し、育成プログラムへ反映させるユニークな研究を推進しています。

また、社員の自発的な能力開発の支援として、技能検定資格を促す資格認定制度や通信教育の費用補助のほか、外部講師による基板スクールの実施やTOEIC受験費用の全面的補助などをおこなっています。

さらに、ますます重要性が高まる海外現地法人の最前線でグローバルに活躍できる社員を育成するために、国内社員の語学研修や海外社員の日本における研修制度の充実のほか、今後はマネジメント力の向上および海外派遣(トレーニー制度)などを展開します。

●階層別研修

新入社員

- ・ ビジネスシミュレーション研修
- ・ 製造・営業実習と問題解決の実践

中堅社員

- ・ MBA (Meiko Board Academy)
- ・ 次世代マネジメント層の育成

管理職

- ・ MAPS (Management Academy for Problem Solving)
- ・ 問題解決力向上

部門長

- ・ 社長塾
- ・ さらなる成果創出のためにメイコーDNAの実践者となる人材を育成

●分野別研修

技術者教育

- ・ メイコー基板スクール(ベーシック編・アドバンス編)
- ・ 新入社員・中途入社社員・中核技術者の技術力を向上

グローバル教育

- ・ TOEIC社内受験の定期化とインセンティブ制度
- ・ 英語選抜研修
- ・ 中国語・ベトナム語研修

●自己啓発

通信教育講座

- ・ 語学系講座を修了した場合は受講料の80%を補助

安全衛生に関する取り組み

メイコーでは、安全衛生方針に基づき、すべての職場における不安全状態の撲滅と作業環境の向上、そして全従業員の健康増進をすることを目標に安全衛生活動を推進しています。労働災害の防止はもちろんのこと、より効果的に問題を発見するために、産業医や労働衛生コンサルタントなど有識者による職場巡視や、工場間での安全衛生委員による相互パトロールなども実施しています。さらには、リスクアセスメントによるリスクの見積もりとそれに基づく労働災害の予防措置をおこない、安全衛生管理の向上に努めています。

●労働安全衛生方針

メイコーグループでは、「企業の最大の財産は人」との考えのもと、すべての従業員が心身ともに安全で安心して働き、個々人の能力を十分に発揮できる職場づくりを目指します。

1. 労働安全衛生の関連法規制および社内規程を遵守し、すべての職場における不安全状態の撲滅を図ります。
2. 職場におけるリスクアセスメントを実施し、目標を定め労働環境の改善および労働災害リスクの低減に継続的に取り組みます。
3. 従業員一人ひとりに労働安全衛生活動を周知させ、安全衛生意識の向上を図ります。
4. 従業員の心と体の健康の保持・増進に対し積極的な支援を図ります。

株主様・投資家様に向け IR活動の充実

2017年の主な活動実績

- 機関投資家様向け決算説明会、アナリストミーティング、スモールミーティング、投資家様訪問を実施
- 海外の投資家様に向けた各種IRツールの英語化

今後の計画

- 各種説明会を継続実施
- さらなるグローバル化、投資家様に有用な情報の発信

メイコーは、企業行動規範において、「企業価値の創造に向け、健全かつ透明性のある企業活動・企業経営に努め、株主や投資家の皆様に信頼される企業であり続けることを目指します」と定めています。この規範に基づき、各種法令を遵守しながら健全で公正な企業活動を積極的におこなうことで企業価値を最大にすべく努めています。

適時・適切な情報の開示

株主・投資家の皆様の投資判断に影響を与えると思われる重要な情報は、適時開示規則に基づき適切に開示するとともに、それ以外の重要な情報も迅速・適切かつ公平に開示をおこない、経営の透明性を向上させています。

海外の投資家様に向けて

海外の投資家様に当社の事業活動に理解を深めていただけるよう、株主総会招集ご通知およびプレゼン資料、株主通信、決算説明会資料の英語化をおこなってIRのグローバル化を進めています。

株主通信

メイコーへの理解をより深めていただくために、株主の皆様への情報提供として年2回「株主通信(MEIKO REPORT)」をお届けしています。



MEIKO REPORT

地域社会に向けて 社会貢献

2017年の主な活動実績

- 各サイトにおいて、地域課題に沿った社会貢献活動を実施
- 各サイトの取り組みを他サイトで展開するための情報共有の強化

今後の計画

- 多くの従業員が自発的に参加できる枠組みの構築

メイコーでは、地域社会との密接な関係を築くために、本社をはじめとするグループ各社での社会貢献活動を積極的に推進しています。今後も、各自治体の主催する環境美化活動や各種イベントに積極的に参画するとともに、良き企業市民として各地域社会に密着した社会貢献活動を推進することで、社会の一員としての責任を継続的に果たしてまいります。

中国 武漢工場

- 地域清掃活動

ベトナム タンロン工場

- 地域清掃活動

ベトナム工場

- テット前後に経済的に恵まれない家庭・老人・障がいのある方へ寄付
- 地元レスリング伝統大会協賛
- フンサー村の小学校へテレビとパソコンを寄贈
- フンサー村の子供へ月餅を寄付

中国 広州工場

- 南沙区政府主催の献血活動へ参加(6月84名採血)
- 地元の学校教育を応援する為、南沙区小学校・大湧村小学校に寄付
- 南沙町の組合活動に参加し、町の清掃活動を実施
- 大湧敬老院のイベントに協賛

石巻工場

- 地域清掃活動

山形工場

- 谷地どんが祭り協賛
- かほくほくほく祭り協賛
- 地元高等学校の工場見学・インターンシップ受け入れ
- 献血活動への参加(2月 14名)
- 近隣小学校へ写真ニュース掲示板寄贈

福島工場

- 広野町サマーフェスティバルに協賛
- 年2回の献血活動への参加(9月12名採血、3月8名採血)
- 地元高等学校の工場見学・インターンシップ受け入れ

本社および神奈川工場

- あやせ環境ネットワーク協賛
- あやせ商工フェア協賛
- 綾瀬市福祉協議会「綾瀬ふれあいの家」協賛
- 綾瀬市花火大会協賛
- 綾瀬市少年野球連盟春季大会&メイコーカップ開催
- 第16回神奈川県障害者技能競技大会アビリンピック2018協賛
- 「交通事故防止」キャンペーン 近隣の小中学校へ寄贈



Action 1 近隣高校の工場見学会開催

メイコーでは、高校生が実践体験を通して社会を知り、地域企業に対する理解を深める手助けとなるように、近隣にある高校の工場見学やインターンシップの受け入れを積極的に行っています。



福島工場 見学



Action 2 献血活動の実施

メイコーでは、国内外の各拠点において献血活動を継続的に実施しています。福島工場では、社会貢献の一環として微力ながら命の手助けをしていきたいと、9月に12名、3月に8名の従業員が採血に協力し、山形工場でも同様に2月に14名が協力しました。

また、広州工場でも南沙町主催の献血活動に賛同し、6月に84名もの従業員が採血に協力しました。



山形工場献血活動



広州工場献血活動



Action 3 地域社会に沿った社会貢献活動

広州工場では、広州市環境保護局より「広州市環境公益事業体」の表彰を受けました。



また、ベトナム工場では、地元フンサー村の小学校へのテレビやパソコンの寄贈や子供たちへの月餅の寄付、毎年恒例のレスリング祭りへの協賛等の地域に密着した社会貢献活動を継続しています。



小学校へテレビ・パソコンの寄贈



レスリング祭り協賛

環境報告

ENVIRONMENT REPORT

メイコーでは、事業活動にともなう環境負荷を可能な限り低減することが、持続可能な社会に対し貢献することであり、企業としての使命・責任であると認識し、活動しています。

2017年度の主な活動実績

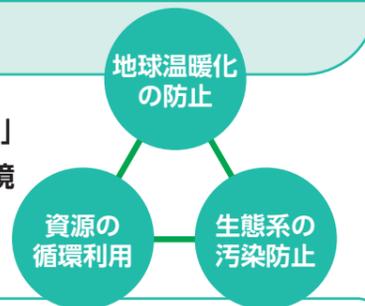
- CO₂排出量は前年度実績より若干増加
- 社有車のエコカーの導入
- 再資源化率99%以上を維持(国内のみ)
- 廃棄物交換システムなどを活用し、不用品の再利用化
- SVHC追加物質の把握と仕入先への調査を実施

今後の計画

- エネルギー原単位を1%以上改善
- 蛍光灯のLEDランプへの交換推進
- 再資源化率100%を目指す
- RoHS指令の追加使用制限物質の把握と仕入先への調査を実施

環境基本方針

当社は「かけがえのない地球」を「きれいな水と大気と緑の環境」の状態の後世に残すことを最大の責務と考え、事業活動と地球環境の調和を図り、「環境に優しい事業活動」を推進する。



●メイコー環境行動指針

当社は、電子回路基板、メタルマスク及び電子機器の設計、開発及び製造の事業活動を行っており、その事業活動に対して地球温暖化の防止、資源の循環利用、生態系の汚染防止など、環境負荷を軽減して環境保全、環境保護することが最重要課題であると考えます。

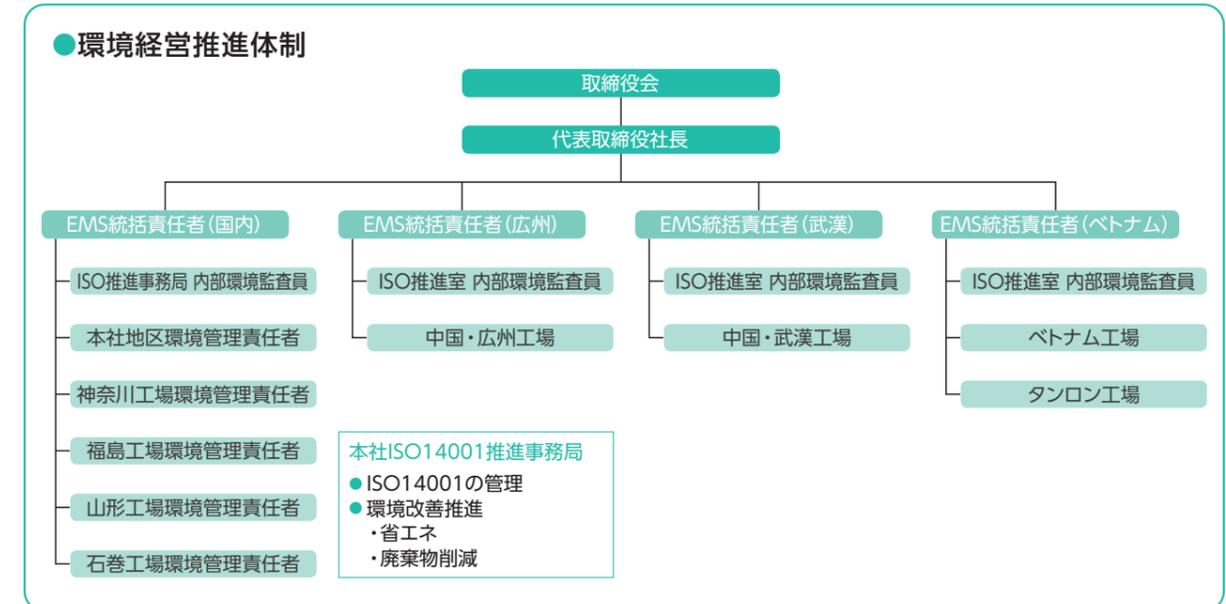
私たちは、環境基本方針に則り、事業活動が環境に与える影響を十分に把握し、汚染の未然防止と環境負荷の低減に努め、次のとおり行動する。

1. 環境保全活動推進のための組織を整備し、環境マネジメントシステムの構築、見直しを行い、環境影響に対し適切な運営を行い、継続的に改善する。
2. 省資源、省エネ、廃棄物の削減、及びリサイクルの推進を図り、環境保全に貢献する。
3. 製品含有化学物質を適正に管理し、製品に有害化学物質が含まれないようにする。
4. 生産工程における化学物質の適正な管理を実施し、使用量の削減と環境負荷の低減に努める。
5. 環境汚染物質を的確に把握し、汚染予防を推進する。
6. 環境関連の法律、規則、条令及びその他の要求事項を遵守する。
7. 環境目的、目標を定め環境保全、環境保護活動の実施と見直しをする。
8. 全従業員が高い意識を持って環境保全、環境保護に取り組めるよう、教育、指導を行う。
9. この環境方針は文書化し、全従業員に周知すると共に、一般にも公開する。

2017年10月19日 代表取締役社長 名屋 佑一郎

環境経営推進体制

「環境基本方針」を実現すべくISO環境マネジメントシステムを構築し、国内外の各工場に環境を統括するEMS(環境マネジメントシステム)責任者を配置しています。また全社横断の省エネ委員会を開催しCO₂削減、ゼロエミッション活動等により環境保全に努めております。



ISO14001 認証取得

環境経営に資するためにISO14001を重要な規格と位置づけ、2000年度より取り組みを開始し、国内・海外工場で継続的な取り組みを実施しています。

●ISO14001の認証取得状況

2001. 03.27	本社および神奈川工場
09.25	山形工場
2003. 04.17	福島工場拡大取得
04.30	中国・広州工場取得
2005. 04.22	国内3工場統合
04.22	MDS拡大取得
2006. 04.28	メタルマスク部拡大取得
2007. 02.20	中国・武漢工場取得
2009. 03.26	研究開発センター拡大取得
03.26	大和テクノロジーセンター拡大取得
2010. 06.18	ベトナム・タクト工場取得
2014. 01.15	石巻工場再取得
2015. 04.24	ベトナム・タンロン工場取得
2017. 01.27	全工場 ISO14001・2015年度版移行完了

※国内はJET(電気安全環境研究所)、中国はTUV(テュフラインランド)、ベトナムはBVC(ビューローベリタス)より認証取得しています。



国内ISO14001認証証



中国広州工場ISO14001認証証



中国武漢工場ISO14001認証証



ベトナムタンロン工場ISO14001認証証

環境関連法令遵守

環境意識の高まりとともに、環境関係の法令および各地域での条例も改正されておりますが、それらの改正などに確実に対応し遵守していくことが地域社会の環境保全に対するメイコーとしての貢献につながると考えています。メイコーではISO14001に基づき、メイコー事業活動に関連する法令および各拠点地域の条例を特定し、かつ改廃を監視することにより、法令・条例を確実に遵守する活動を展開しています。

環境目標計画の推進

メイコーでは企業活動による環境影響評価を実施し、著しい環境側面としてエネルギーは電気・重油・ガス・ガソリン、資源は使用原材料・水・紙、廃棄物は廃プラスチック・污泥・廃酸・廃アルカリなどを抽出しています。2017年度はベンチマークおよび目標を再設定し、活動を推進してきました。引き続き、生産効率の改善、さらなる省エネへの取り組みを実施し、原単位での着実な削減を目指します。

現場の声

EMS統括責任者
取締役常務執行役員
松田 孝広



当社環境方針に基づき、省資源、省エネ、廃棄物の削減及びリサイクルの推進、製品含有化学物質の適正管理、生産工程における化学物質の適正管理による使用量の削減と環境負荷の低減を日々進めております。

当社では環境活動の一環として、福島工場の敷地内に2015年6月に開設した「ソーラーパーク福島」の隣接した空地に太陽光パネルの増設工事が完成し、2017年4月に発電を開始しました。

今回の発電設備は、敷地面積約7,500㎡にソーラーパネル2,016枚を使用したもので、出力が534kwとなり現在の設備と合わせて約3,000kwの発電規模となります。

現在の発電設備は毎月安定した発電をおこなっていますが、新発電設備の稼働によりさらに事業規模が拡大することになります。

今後さらに地球環境保護のために環境リスクの低減を図り、環境に優しいものづくりを実現して、社会に貢献してまいります。

地球温暖化の防止

メイコーでは、かけがえのない地球に対する極めて大きな脅威として、温室効果ガス問題を認識しています。この取り組みは、エネルギー起源の二酸化炭素排出量を削減するための省エネ活動になります。

国内では法令の規定もあり、排出量削減の年度計画・中長期計画を策定、推進していますが、海外工場においても同様な取り組みを展開して、グローバルな地球温暖化防止活動を推進しています。

2017年度は、工場部門と事務部門の省エネ改善活動を実施しました。個別の効果が得られたものもありますが、全体としては生産量変動の影響で目標とする原単位の低減はできませんでした。今後は、それを挽回すべく目標達成のための取り組みを実施してまいります。



省エネ委員会

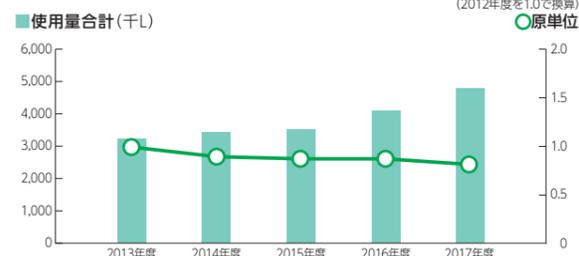
CO₂排出量推移



電力使用量推移



燃料油使用量推移



天然ガス使用量推移



ガソリン使用量推移



※2012年度よりベトナム工場、2013年度より石巻工場、2016年度よりタンロン工場の実績を追加しています。
※近年は生産量増加に伴い、エネルギー使用量も増加していますが、原単位はほぼ横ばいで推移しています。

省エネ改善活動事例

ベトナム工場改善事例

12台のコンプレッサで工場に圧縮空気を供給しています。生産設備の要求圧力に対して、過剰な圧力設定で圧縮空気を供給していたため、コンプレッサの吐出圧力設定を、従来の0.70MPaから、0.67MPaに低減変更しました。コンプレッサ、エアドライアからの排熱を排気し、コンプレッサ室の室温低下にも取り組み、これらの活動により電力量の削減につながりました。

1年間のCO₂削減量 **180トン** (従来より、4%低減)



コンプレッサ

山形工場改善事例

排熱回収型のコンプレッサを導入することで、コンプレッサにて発生する排熱を回収し、蒸気ボイラーの供給水の昇温に利用しています。これにより、給水タンクでの昇温に使われるボイラー蒸気が削減され、ボイラーの燃料効率が向上し、燃料の重油使用量が削減されました。

- ・年間で**3,000リットル**の重油が削減できました。(従来比 8%の削減)
- ・年間で**81.3トン**の炭酸ガス排出量が削減できました。



コンプレッサ

資源の循環利用

水の使用状況

電子回路基板の製造には、基板洗浄の工程で大量の水を使用します。メイコーはこれまで設備毎の水使用管理、RO水*の利用などで削減に取り組んできました。

引き続き、各工程で品質に影響を及ぼさない必要最低限の水の使用、またRO濃縮水の再利用システムを導入し、排水の再利用に取り組み、削減効果を発揮しています。

*RO水：逆浸透膜 (Reverse Osmosis) を利用し、不純物を取り除いた水であり、洗浄工程で使用します。

● 用水使用量推移



● コピー用紙使用量推移



紙の使用状況

森林資源の保全に貢献できるよう、全社を挙げて資料の電子化、不要コピーの廃止、電子承認システムの導入等で用紙の削減に取り組んでいます。

廃棄物の削減と再資源化

廃棄物削減については3R(リユース、リデュース、リサイクル)を念頭に置き活動しています。2016年度に引き続き、廃棄物の有価物化など廃棄物の再資源化に積極的に取り組んでいます。なお、排出された廃棄物が埋立処分以外の用途に使用される再資源化率は、2017年度国内工場の実績で99%以上となっています。

*再資源化には熱回収も含まれています。

*中国工場(広州、武漢)、ベトナム工場(ベトナム、タンロン)は算定から除外しています。

廃棄物削減活動取り組み事例

自社内での資源回収

工場で発生する産業廃棄物の中には、自社内にプラントや設備を設置して資源を回収しているものがあります。

1. 金めっき廃液から、金を回収
2. ソフトエッチング廃液から、銅を回収
3. エッチング廃液から、銅を炭酸銅・硫酸銅に生成して回収

資源を循環利用することにより、天然資源の枯渇防止となり、地球環境保護に貢献しています。



写真：広州工場のソフトエッチング廃液処理装置

生態系の汚染防止

環境負荷低減対応

メイコーでは、工場における事業活動の地域環境へ与える大きさを認識し、その負荷を軽減することがわれわれの責務であると考えています。具体的には公害防止法令および地域との協定基準を遵守し、「PRTR法」で把握された排出総量を削減すべく活動を行っています。

排出負荷削減活動

地域環境の維持に貢献するため、定期的に排水水質、大気放出ガスの状態などの測定を実施し、管理しています。メイコー各工場の主な排出物質実績は下記の通りです。

すべて基準値以下を維持しております。

事業所名	水質				大気				
		pH	BOD	COD	SS	対象設備	対象物質	ばいじん濃度	窒素酸化物濃度 (NOx)
神奈川工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	7.23	7.0	13.3	-		実績	0.002	62
	基準値	5.7~8.6	25	25	70		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
福島工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	7.56	12.8	9.1	1.1		実績	0.005	57
	基準値	5.8~8.6	25	25	70		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
山形工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	7.6	8.7	16.8	15.2		実績	0.005	64
	基準値	5.8~8.6	25	160	60		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
石巻工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	g/m ³ N	v/vppm
	実績	7.1	16.3	15.4	3.5		実績	0.014	45
	基準値	5.8~8.6	25(20)	160(120)	60(50)		基準値	0.3 (大気汚染防止法)	180 (大気汚染防止法)
広州工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	ボイラー	測定単位	g/m ³ N	mg/m ³ N
	実績	7.12	5.3	76.0	18.5		実績	15.63	125.73
	基準値(省)	6~9	300	500	400		基準値	国:100 地方:80	400
武漢工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	蒸気ボイラー	測定単位	mg/m ³ N	mg/m ³ N
	実績	7.52	5.9	22.3	18.6		実績	17.8	14
	基準値(国)	6~9	20	80	50		基準値	50	400
ベトナム工場	測定単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	ボイラー	測定単位	mg/m ³ N	mg/m ³ N
	実績	7.61	8.1	15.7	5.7		実績	42.3	64.30
	基準値	6~9	30	75	50		基準値	200	850

*水質測定項目は、水質汚濁防止法生活環境項目の一部開示となっています。

*水質測定値は平均値となっています。

環境負荷表

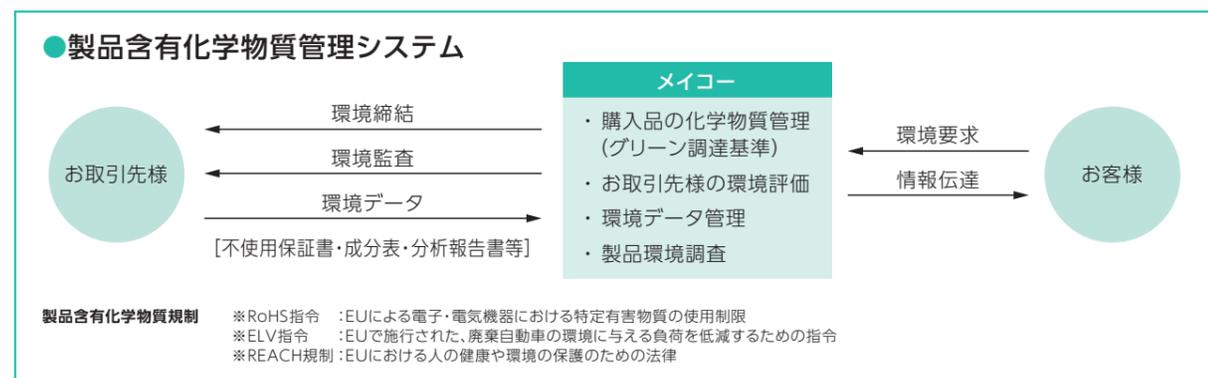
メイコーとして環境負荷の全体像を把握する取り組みをおこなっています。2017年度実績を下表に示します。今後はインプットのエネルギー、水、材料、化学薬品、アウトプットの大気放出、排水、廃棄物・有価物、リサイクルに区分した取り組みをより正確に把握してまいります。

事業活動と環境負荷				
対象範囲: 本社および主要8工場 対象期間: 2017年度(2017年4月1日~2018年3月31日) 事業内容: 電子回路基板の製造				
INPUT		OUTPUT		
エネルギー投入量	電気 (千kwh)	538,030	CO ₂ 排出量 (kt)	524
	重油 (kℓ)	1,144	NOX排出量 (t)	121
	天然ガス (km ³)	9,937	ばいじん排出量 (t)	7.3
	軽油 (kℓ)	3,679	PRTR物質排出量 (t)	4.2
	ガソリン (kℓ)	95	PRTR物質排出量 (t)	0.24
資源	水 (km ³)	10,774	PRTR物質排出量 (t)	0.24
	コピー用紙 (千枚)	8,655	廃棄物発生 (t)	3,517
化学物質	PRTR対象物 (t)	369	PRTR物質排出量 (t)	18

(国内のみ)

製品含有化学物質管理

メイコーでは、「環境行動指針」に基づき、RoHS指令など法規制で禁止されている有害物質が製品に含まれないよう、化学物質管理規定で禁止物質を定め、厳しく管理しています。お取引先様より不使用保証書および分析報告書などの環境データをいただき、お客様からの調査要望に対して適切に伝達できるよう努めています。



現場の声

山形工場
環境設備保全課
太田 嘉浩



山形工場では、廃棄物のゼロエミッション活動を推進しています。具体例として、工程から排出される銅含有廃液を廃水原水に添加することで、廃水汚泥中の銅含有率を高めて「銅含有汚泥」とすることで、有価物化を実現しました。

このような活動を通じて、環境基本方針に基づいたゼロエミッション化の推進を行ってまいります。

マネジメント報告

MANAGEMENT REPORT

業務の適正かつ効率的な遂行を確保するため、
監査および内部統制が適切に機能する体制を整え
経営の透明性を高めるとともに、ステークホルダーから
信頼されるマネジメント体制を整えています。

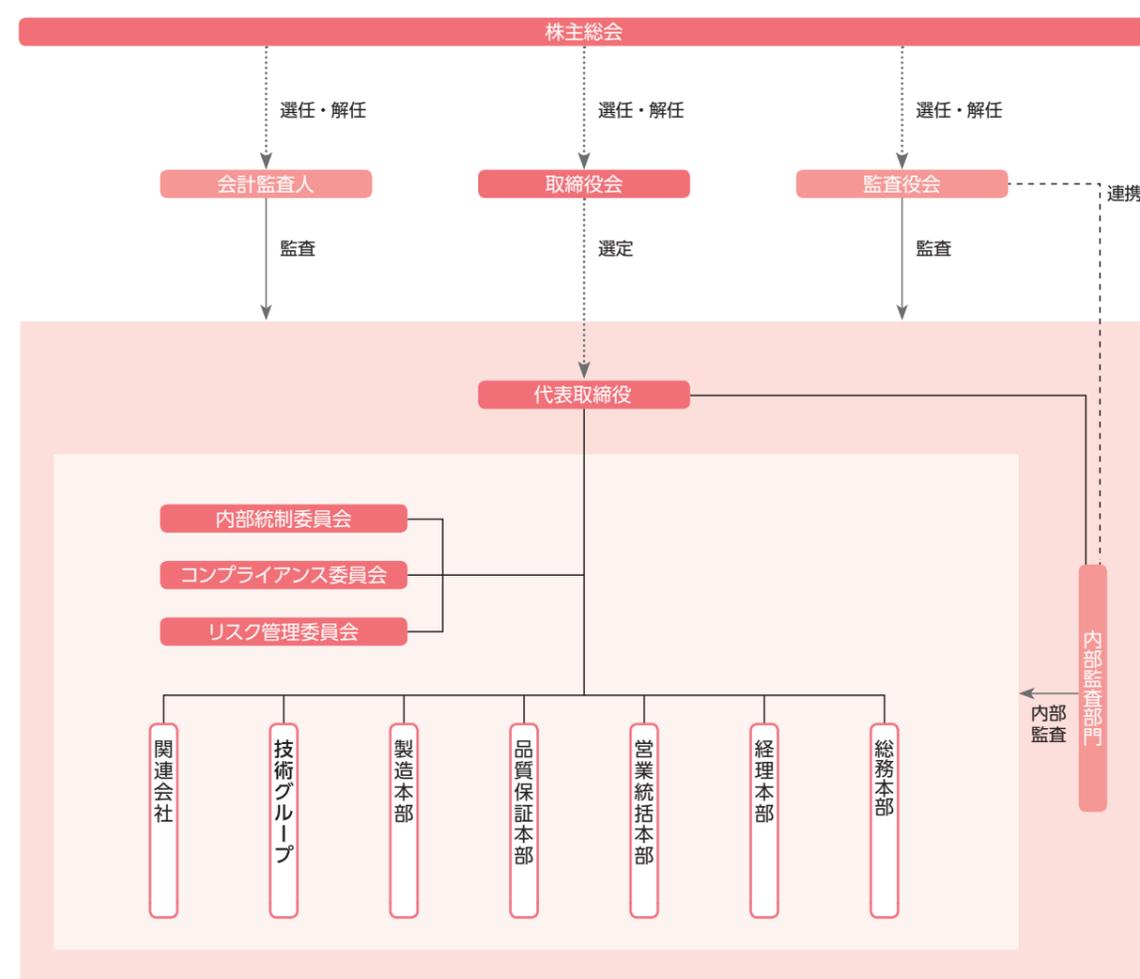
コーポレートガバナンス

会社の機関の内容

メイコーグループでは、主な意思決定機関として「取締役会」を設置しています。また監査役は監査役会の方針に従い各取締役と

執行役員の職務執行状況について監査牽制する体制を整えています。内部監査部門では、内部牽制システムの充実を図るとともに、内部統制システムの方針に基づきコーポレートガバナンスとコンプライアンスが有効に機能するように図っています。

●当社におけるコーポレートガバナンス体制



内部統制

2017年の主な活動実績

- 金融商品取引法 (J-SOX) に基づく、内部統制整備の更新と評価
(統制対象拠点として、中国子会社、ベトナム子会社、アメリカ子会社を含む)
- 内部監査部門による監査の実施

今後の計画

- 金融商品取引法に基づく内部統制の評価
- 内部監査の実施
- 監査役との連携強化

メイコーにおける企業統治の体制は、経営を公正におこない、またその内容を極力透明にするため、社外取締役のほか、経営監視機能である監査役、会計監査人および内部監査部門を設け、各々連携をとりながら、コーポレート・ガバナンスの構築に取り組んでいます。内部統制は企業統治の中で、経営効率向上および企業活動の正当性確保のために不可欠な要素であり、その有効性を評価し次の経営改善に繋げることは社会的責任を全うすべき企業の使命であるとの認識のもと、メイコーグループとしてこの活動を推進しています。

内部統制システム

会社法および会社法施行規則に基づき、業務の適正を確保するための体制(内部統制システムに関する基本方針)について、取締役会にて以下の事項を決議し、整備しています。

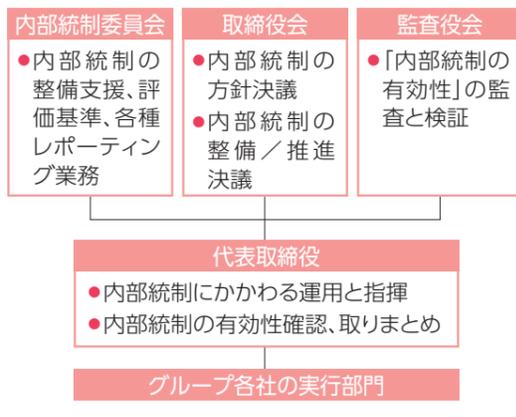
- 2018年度「内部統制システム構築の基本方針」

 1. メイコーグループのコンプライアンスを確保するための体制
 2. 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 3. メイコーグループのリスク管理に関する体制
 4. メイコーグループの取締役による効率的な職務の執行を確保するための体制
 5. メイコーグループにおける業務の適正を確保するための体制
 6. 監査役の職務を補助すべき補助用人に関する体制
 7. 監査役への報告に関する体制
 8. 監査役監査の実効性を確保するための体制

財務報告に関わる内部統制

メイコーでは、「内部統制システムに関する基本方針」を踏まえ、金融庁内部統制実施基準などに従い、自社の評価方針・手続・方法、評価体制、評価範囲、評価スケジュール、評価の記録・保存などに関する方針・計画を策定するとともに、経営者主導による評価体制を定めています。この方針・計画に沿って、2016年度に引き続き2017年度においても連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす全社的な内部統制(決算・財務報告プロセスを含む)の有効性を評価しました。その結果に基づき、2017年度の内部統制報告書においては、「当社の財務報告に関わる内部統制は有効である」と評価し、監査法人の適正意見をいただきました。

● 2017年度のメイコーグループ内部統制



コンプライアンス活動

2017年の主な活動実績

- コンプライアンスメールマガジンの毎月配信
- コンプライアンスポスターの掲示

今後の活動

- E-ラーニングによるコンプライアンス教育

メイコーグループでは、コンプライアンスを経営における重要な課題の一つと位置づけ、法令を遵守し、社会倫理やモラルに則った企業活動を行っています。

そのため「メイコーグループ企業行動憲章」および「企業行動規範」により活動の基準を示すとともに、「コンプライアンス規程」で活動の枠組みを定め、コンプライアンスの推進に取り組んでいます。

コンプライアンスポスターの掲示

コンプライアンス意識の浸透の為、コンプライアンスポスターを掲示しています。(同じデザインのア4クリアファイルも作成し社内に展開しています。)



コンプライアンスハンドブック

当社では役員・従業員の意識を高めるため、独自のコンプライアンスハンドブックを配布し、同時に社内ホームページにも掲載し、周知を図っています。



コンプライアンスハンドブック

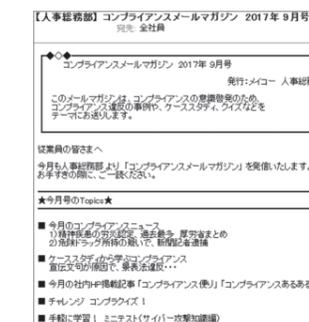
コンプライアンス事例の社内HP掲載

コンプライアンス事例を、イラストをまじえて毎月社内HPにて紹介しています。



コンプライアンスメールマガジンの配信

コンプライアンスメールマガジンを毎月、配信しています。



内部通報制度の設置

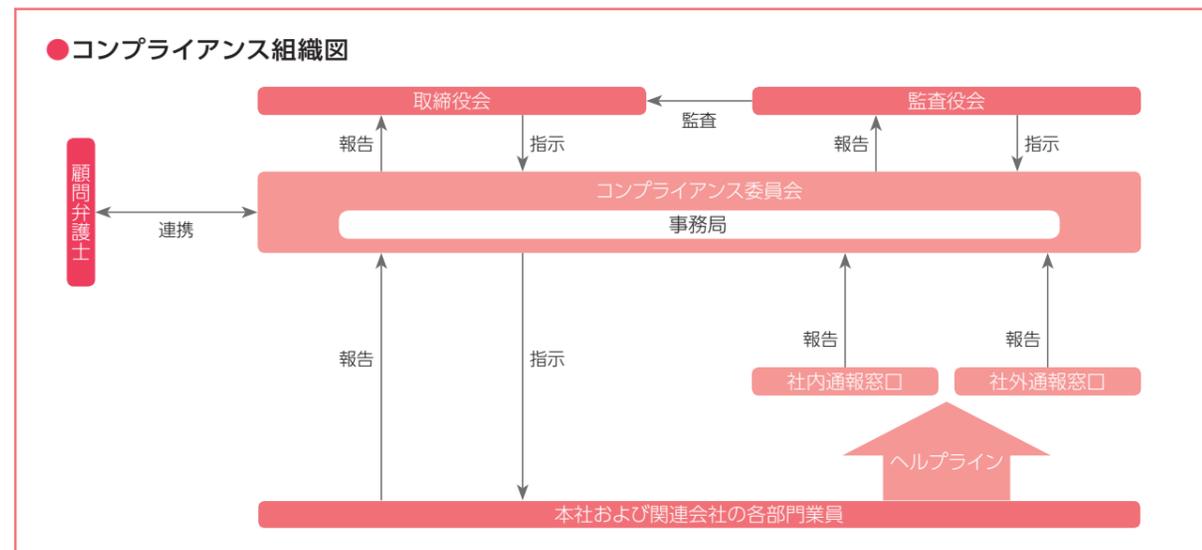
コンプライアンス違反またはその恐れのあることを発見、察知した場合に適切に対応できる窓口として、内部通報制度（ヘルプライン）を設置しています。通報先には会社から独立した窓口も確保し、通報者が不利益な取り扱いを受けることのないよう配慮しつつ、内部通報制度が有効に機能し、その実効性を高めるよう取り組んでおります。

反社会的勢力の排除

メイコーは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力を、その属性だけでなく暴力、威力、詐欺的手法を駆使して経済的利益を追求するものおよびそれを利用するものと捉え、一切の関係を遮断するとともに、これらの勢力に対しては「反社会的勢力対策規程」および各種「マニュアル」に従い、警察などの外部専門機関と緊密に連携して全社を挙げて毅然とした態度で対応しています。

コンプライアンス組織体制

メイコーグループにおいてコンプライアンスを確実に推進していく組織として、コンプライアンス委員会を設置しています。委員会はコンプライアンス担当役員および事務局（総務部門）の招集のもと、取締役・監査役・執行役員を中心に、毎年定期的実施するほか、必要に応じて実施しています。



担当者の声

人事総務部
総務グループ 次長
齋藤 直樹



メイコーグループでは、経営理念や企業行動憲章に掲げた精神に基づき、法令や社内ルールを遵守し、社会通念・企業倫理を逸脱することのないよう公正かつ堅実な企業活動を推進しています。「コンプライアンス体制」を構築し運用していくことは企業の責任ととらえ、コンプライアンスの視点からも業務改善に取り組んでいきます。

当社グループにおいては中国、ベトナムの大規模生産拠点の他、米国、欧州、ASEAN諸国に営業拠点を設けており、グローバルな視点でのコンプライアンス活動が求められており、今後も各拠点の担当部門とコンプライアンス委員会とで連携を図りながら、役員および従業員に向けて教育、周知活動を通じ、信頼される企業づくりを実践していきます。

情報セキュリティ

2017年の主な活動実績

- ISO27001 認証の更新
- ベトナム工場でのISO27001 認証取得

今後の活動

- ISO27001 認証の適用範囲の拡大

電子回路基板の製造・販売を事業領域とするメイコーの事業は、お客様からの大切な情報を適切に管理することによりご信頼をいただくことで、成り立っていると考えています。メイコー全体の情報セキュリティに関する取り組みとして、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際認証規格ISO27001の取得を通じ、お客様との情報に対する管理体制を構築し、維持・強化を図っています。

● 情報セキュリティ方針

当社の経営理念に基づき、当社が保有するお客様情報・情報資産を不正アクセス・災害・犯罪などの脅威から保護するため、セキュリティ強化の施策を実施し、また経営陣・従業員の情報セキュリティに対する意識を高めます。ここに情報セキュリティのポリシーを掲げ当社経営理念とともに経営陣・従業員が一丸となり実践することを宣言します。

1. 情報セキュリティシステムの継続的な改善
2. 情報資産の保護と継続的な管理強化
3. 法令・規範の遵守と社会的責任の遂行
4. 経営陣・従業員の継続的な教育・訓練
5. トラブル発生時の敏速な対応とリスクマネジメントの実施

顧客情報保護

当社情報セキュリティ方針に基づき、お客様の機密情報の保護を徹底しています。

情報セキュリティ教育

メイコーでは、社内ルールの徹底を図るために、e-ラーニングや集合教育による情報セキュリティ教育を毎年実施しています。



情報セキュリティ講習の様子

個人情報保護

個人情報保護に関する法律を遵守し、個人情報の適切な取り扱いをおこなうべく、メイコーでは「個人情報保護規程」を定め、取り扱いに際して厳重な注意を払っています。

情報セキュリティに関する活動

お客様の大切な情報をお預かりする立場にあるメイコーでは、情報セキュリティの重要性を認識して、2006年の初回認証以降、順次適用範囲の拡大を行い、情報管理体制の強化を図っています。

2006年 1月 本社情報システム課において、BS7799-2認証取得

2009年10月 中国武漢工場の対象4部門において認証取得

2010年12月 中国広州工場の対象6部門において認証取得

2016年12月 日本国内 適用範囲拡大

2017年 9月 ベトナム工場の対象3部門において認証取得

標的型攻撃メール訓練の実施

情報セキュリティに対する危機意識の強化を図る為、2017年度に国内の電子メール利用者全員を対象に疑似メールを発信し、標的型メール攻撃を疑似体験するための訓練を実施しました。今後も標的型メール訓練を定期的に行っていく予定です。

リスク管理体制

2017年の主な活動実績

- 年2回、安否確認の訓練を実施
- 緊急連絡体制の見直し

今後の計画

- 各拠点における事業継続計画(BCP)のアップデートと体制の再構築
- 第三者機関によるリスクサーベイの実施
- ERM活動の推進強化

メイコーでは、常に当社をとりまく環境、災害、品質、情報セキュリティなどの様々なリスクを想定して、リスク管理についての「リスク管理基本規程」および、これに基づく、「BCP基本方針」「緊急時対応マニュアル」を作成し、さらにお客様の生産計画への影響を最小限におさえるべく、当社の各工場においてBCP(Business Continuity Plan)を作成し、緊急時に備えています。なお、情報系のリスクに対しては、本社のほか山形工場にもサーバーを設置し常時バックアップを取ることでリスクへの備えとしています。

また、万が一災害や事故等が起きた場合には、代表取締役社長を本部長とする「緊急対策本部」を速やかに設置し、原因の究明、状況の把握や今後の対策等の統括的な対応をおこないリスクへの迅速な対処、再発防止に努めるような体制を整えています。

危機の種類とリスク要因

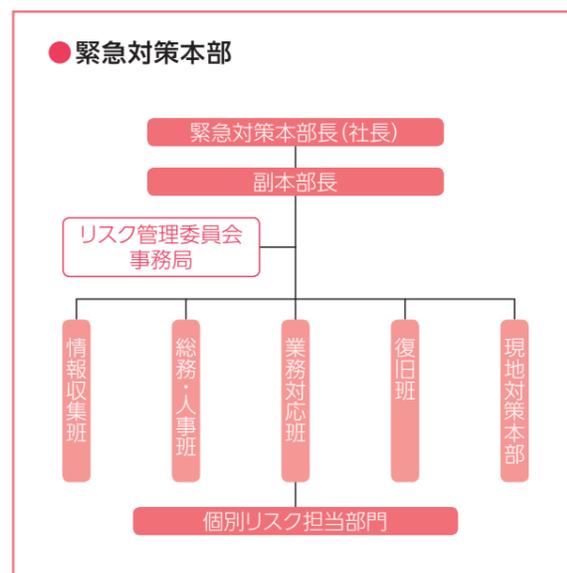
当社をとりまくリスクには、地震・津波などの自然災害のほか、為替変動・マクロ経済状況などの経営環境の変化、海外拠点における政治・経済・インフラ上のカントリーリスク等、様々な要因があります。メイコーでは、これらのリスクに対し各拠点ごとに事前の防止策の検討から事後の復旧に至るまでのBCPを作成し緊急時に備えると共にERM(Enterprise Risk Management)活動を通じてリスクマネジメント体制を強化してまいります。

従業員安否確認システムの導入

震度5弱以上の地震やその他の災害・事故等が発生した際に、該当地域の従業員に対して安否確認や情報伝達をおこなうことを目的として、国内グループ会社の全従業員および海外駐在員を対象とした「安否確認システム」を導入しています。災害発生時に有効活用できるように、年2回、定期的に全社的な訓練を実施しています。

グループBCPの構築

メイコーでは様々なリスクに対してビジネスインパクト分析をおこない、目標復旧時間(RTO)、緊急初動体制のシミュレーションを拠点ごとにマニュアル化しています。今後も定期的なBCPの見直しを継続するとともに、確実に遂行するためのシミュレーション訓練、備品の整備、および従業員への啓発などをおこなってまいります。



会社概要 (2018年9月30日現在)

本社所在地 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上5-14-15

- 生産拠点
- 神奈川工場
〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上5-14-15
 - 福島工場
〒979-0401 福島県双葉郡広野町大字上北迫字岩沢1-2
 - 山形工場
〒999-3511 山形県西村山郡河北町谷地字真木250
 - 石巻工場
〒986-0844 宮城県石巻市重吉町8-5
 - メイコー研究開発センター
〒243-0427 神奈川県海老名市杉久保南3-35-6
 - 中国広州工場(名幸電子(広州南沙)有限公司)
中国・広東省広州市南沙経済技術開発区西部工業区広生路2号
 - 中国武漢工場(名幸電子(武漢)有限公司)
中国・湖北省武漢市経済技術開発区神龍大道9号
 - ベトナム工場(Meiko Electronics Vietnam Co., Ltd.)
Lot LD4, Thach That -Quoc Oai Industrial Zone, Hanoi City
 - タンロン工場(Meiko Electronics Thang Long Co., Ltd.)
Lot J1-J2, Thang Long Industrial Park, Vong La Commune, Dong Anh district, Hanoi City
 - 株式会社メイコーテクノ
〒242-0025 神奈川県大和市代官1-14-1

設立 1975年11月25日

資本金 12,888百万円

- 役員
- 代表取締役社長執行役員 名屋 佑一郎
 - 取締役専務執行役員 平山 隆英
 - 取締役専務執行役員 篠崎 政邦
 - 取締役常務執行役員 松田 孝広
 - 取締役常務執行役員 和田 純也
 - 取締役 申 允浩
 - 取締役 土屋 奈生
 - 常勤監査役 伊豫本 齊
 - 監査役 原田 隆
 - 監査役 佐藤 孝幸

従業員数 12,106名(連結)
(国内811名)(海外11,295名)

主な事業内容 電子回路基板等の設計、製造・販売およびこれらの付随業務の電子関連事業

主要な経営指標等の推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
売上高 (百万円)	79,231	90,895	95,287	95,911	108,542
営業利益 (百万円)	922	△2,865	3,325	5,788	7,457
経常利益 (百万円)	1,931	1,075	△491	2,981	4,795
当期純利益(△損失) (百万円)	23	△9,573	△11,250	1,767	4,373
1株当たり当期純利益(△損失) (円)	1.11	△365.76	△429.83	54.14	160.34

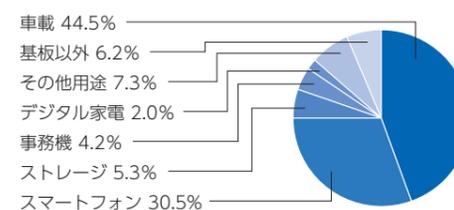
連結売上高の推移



連結経常利益の推移



用途別売上構成比(2017年度)



商品別売上構成比(2017年度)

